

# 旧岩崎家末廣別邸の最新調査成果

～ここまでわかった末廣別邸の秘密～

林 田 利 之

## 謎1. 末廣別邸はなぜ農場の中心に建てられたのか？

総面積 340 ヘクタール（東京ドーム 73 個分）の面積を誇った末廣農場。その中心に大正 15 年、末廣別邸は建築（図 1）されました。ではなぜ、この場所に別邸は建築されたのでしょうか。当初は、農場経営を優先するため広くて平らな土地が必要であり、農場としては使い勝手の悪い土地に別邸が建築されたのであろうと推測がされていました。しかし、明治 15 年、陸軍参謀本部によって作られた「迅速図（図 2）」という地図と、岩崎家が明治政府から土地を購入するというストーリーの中にこの謎を解くヒントがあったのです。

迅速図をよく観察してみると、そこには「農政局種畜場」と書かれている事がわかります。この施設こそが、明治 8 年に大久保利通の発案によって設置された日本初の牧羊場、「下総牧羊場」の事なのです。更に地図を拡大（図 3）して見てみることにしましょう。するとそこには「道」と考えられる線や、土手と考えられる線が幾つもある事がわかり、また牧羊場の事務所として建築されたと考えられる建物も描かれていることがわかりました。これを昭和 21 年に撮影された航空写真（図 4）に重ねてみると、写真に写る道など多くが一致することが確認できました。

つまり、久彌の叔父である岩崎彌之助がこの土地を購入したのが明治 20 年の事ですが、その僅か 5 年前までは下総牧羊場としてこの土地が使用されていた訳であり、払い下げを急いだ明治政府は牧羊場の建物を取り壊すことなく、そのまま売却した可能性が高いと考えられるのです。牧羊場の姿を留めたまま、植林事業が行われた後に大正元年に末廣農場が開場された。そこにはそのままとなっていた事務所が残されており、その場所に末廣別邸が建築されたと考える事ができるのです。

ではなぜ、下総牧羊場の事務所もこの位置に建築されたのでしょうか？その答えは「水の確保」という点にあると考えられます。

富里市は平均 40m の台地上にあることから、台地上での水の確保には苦勞をしてきた歴史があります。末廣農場のあった場所の地形をよく見てみると、湧水地となる「谷地形」はまさ牧羊場の事務所が建築された付近にしかなく、利用する水を確保するためにはこの地形に近い位置に事務所を建築せざるを得なかったのではないのでしょうか。

このように、明治時代に製作された地図を調査したことにより、大久保利通の下総牧羊場時代から、末廣の土地は歴史を重ね、時代を超えて合理的な考え方の下に事務所や別荘が建築されたのであろうということがわかりました。

しかし、久彌は単に合理性だけではなく、「谷津」と「台地」という異なる地形をうまく利用し、自分の好みの別邸（終の棲家）を建てたのかもしれない。



図 1 昭和 21 年頃の末廣農場

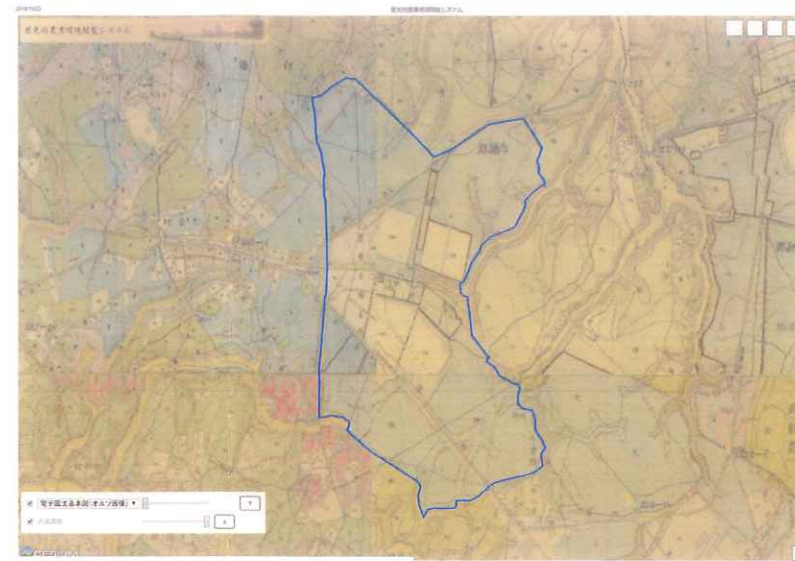


図 2 陸軍作成「迅速図」



図 3 迅速図拡大

末廣別邸敷地範囲

道・土手加筆

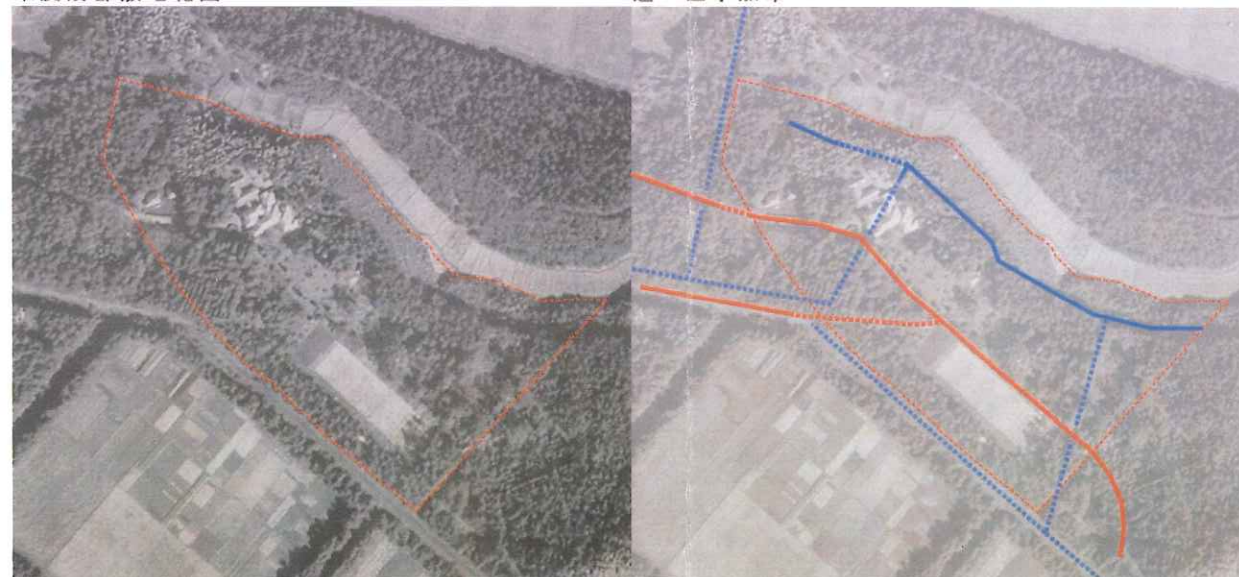


図 4 昭和 21 年の写真との比較

現在の別邸敷地範囲 道（現存） 土手（現存）